

2020. 3. 13

作成者: karate

技術士 2 次試験受験体験記（上下水道部門 科目 下水道）

つたない報告ですが、今後受験される皆様の参考となればうれしいです。

1 受験の動機

私は、某市の技術職員で、平成 24 年度に下水道部下水道建設課計画係へ異動しました。（6 つ目の部署で、これまで河川、道路、土地区画整理事業などを経験し、技術士 建設部門 科目 道路を H20 年度に取得済み）

当時は、東日本大震災の液状化等により管きよの被害が多数発生しましたが、工事担当でなく計画担当として配置されました。前の部署が管財課（財産管理の部署）だったので「なんでなのか」と思いつつ仕事の内容を言い渡されると、地方公営企業法の適用化事業で下水道資産のデータ整理を言い渡され、「なるほど」と思いつつ、下水道工事（災害復旧）はやらないのだなと残念に思っていました。

そんな中で、総合技術監理部門（建設—道路）の受験を継続（H22～H26）してきたので、がんばって合格しようと考え、平成 26 年度に取得することができました。

その後、下水道事業の知識も蓄積し、業務もさまざま（未普及解消・管きよ工事計画、雨水対策、ストックマネジメント計画など）経験してきたので、上下水道部門（下水道）に挑戦しようと決心しました。このころ、SUKIYAKI 塾東北の講師として参加し、受験生の皆さんから大いに刺激を受けました。

このため、平成 28 年度に上下水道部門の受験を開始しました。自分の計画では、最長 3 年間で合格するように考えました。

2 受験に当たって準備したもの

- ・書籍 GE ネットワークの「技術士試験 上下水道部門 傾向と対策」を継続購入
- ・SUKIYAKI 塾 HP や SUKIYAKI 塾東北講師でいただいた資料を収集・分析・整理
- ・国交省下水道部 HP や下水道協会誌より情報収集・分析・整理
- ・トレンドになる情報を新聞、インターネットで収集

* これらを要約して骨子やキーワード集を作成しました。

3 苦労した点

なかなか合格できず苦しんだところ。初回の平成 28 年度の成績は、五択 10/15 選択科目Ⅱが B、選択科目Ⅲが A で不合格でした。特に選択科目Ⅱの下水道の専門、応用がガタガタでこれまで受験した中でも内容が最悪でした。

平成29年度も五択10/15、選択科目ⅡがB、選択科目ⅢがAで不合格でした。やはり選択科目の専門、応用が鬼門で、下水道技術者として未熟さが暴露したものとなってしまいました。

平成30年度には、3年目合格を目標（制度改正前）としてきたので、専門、応用を過去問題やキーワードを整理してがっちり勉強してきましたが、力及ばず、五択9/15、選択科目ⅡがB、選択科目ⅢがAで不合格でした。振り返ると、専門では想定したものと違ったり、応用も問題と違う内容を書くなど惨憺たるものでした。

（ここで下水道建設課から環境再生推進室 輸送対策課へ異動 除染の部署です。）

令和元年度は試験制度改正があり、すべて筆記試験となって、自分のペースで進めることができ、4回目の受験でやっと合格することができました。特に骨子法を使った論文作成はこれまでずっと勉強して身につけてきたので、ロジックには自信がありました。（課題解決ⅢはH28からすべてA評価でした。）

しかし、口頭試験では、傾向がつかめず、制度改正があつてかなりプレッシャーが大きかったです。（別添の口頭試験復元を見てください。）業務詳細も作りこみました。

4 工夫した点

・受験情報をいかにして収集するか。これまでの経験上、時間制約があるので効率よく情報収集をするには、過去問題を分析して、骨子を整理しておく、ノートを作っておくことです。受験時には、あらかじめ用意し、要約した内容をどんな形にも組み替えて対応できるよう考えました。SUKIYAKI 塾の骨子法です。

・50代という年齢も考えると、日々の勉強にかけられる時間も限りがあり、（30代40代の時は夜遅く勉強した。）疲労もたまるので、朝、昼、夜30分ずつ勉強するタイムマネジメントと、年初めの1月くらいから始めるスタートダッシュ、モチベーションの維持を心がけてきました。週1日は休息日を設けました。

・下水道の専門・応用が苦手だったので、過去問や想定問題を書籍などから抽出して、まとめて、常に読み込んで頭に叩き込みました。（短い時間で効率よくを意識して）

また、実務経験上の知識も受験に生きるよう常に資料をまとめました。（未普及解消、老朽化対策、雨水対策、合流改善、官民連携などトレンドなもの）

・令和元年度から、試験制度改正によりコンピテンシー・資質能力を問われていました。これには、総監で勉強した内容（マネジメント リソースの最適な配分、リーダーシップ、リスクマネジメントなど）が大いに役立ちました。また、問題Ⅰの技術者倫理・社会の持続可能性も SUKIYAKI 塾でみっちり勉強してきたので、苦勞せず記述することができました。

5 今後の展開

地方公共団体の（特に）市町村では、細かい人事異動がつきもので、継続し積みかさねて技術力をつけるという環境になっていない状況にあります。また、発注業務・監督等がルーティンワークやこなしができればいいと割り切っている人が多くいます。このため、公務員技術者として自信がなく、コンサルタントや施工業者、住民の皆さんにご迷惑をかけることも数多くあると感じております。また、品確法で定められた責務を全うできないといけません。

このため、技術士受験をきっかけに、自信をつけて問題・課題解決ができるような仲間を増やしていきたいと常日頃から考えています。

今後も私は SUKIYAKI 塾に参加し、仲間を増やしていきます。所属する市でも少しずつですが仲間を増やします。公務員の受験支援も続けていきます。

6 復元したもの（データを送ります。）

- ① 上下水道部門 問題Ⅰ－１ BCPの策定
- ② 下水道 問題Ⅲ－２ 管きよ老朽化対策
- ③ 口頭試験復元

以上参考になればうれしいです。